

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100744		
法人名	社会福祉法人 慈豊会		
事業所名	グループホーム翠		
所在地	福井県福井市堅達町24-1		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は福井市の東の郊外、田園に囲まれた堅達山のふもとにあります。緑豊かな場所であり、テラスや窓から見える風景からは、四季の移り変わりを身近に感じることができます。周囲の田園散歩など日常的な外出や季節に応じた創作活動、体を動かすレクリエーションなど、日々ご利用者の方々に楽しんでいただけるような活動にも努めております。隣接する特別養護老人ホームとは合同で行事を企画したり、研修会を開くなど連携してサービス提供を行っています。また地域との関わりあいも大切にしており、地元の方とイベントを通じて交流図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市東部の堅達山の麓の高台に位置し、遠くの市街地や田園が一望でき四季折々の自然を感じることができる。土砂災害対策の擁壁工事も9月に完了している。同じ敷地内に特別養護老人ホーム山翠苑があり、行事や研修体制も整っている。利用者の居室はホールから少し離れた廊下に沿って並んでおり食後はゆったりと自室でテレビを見て過ごす利用者も多い。各部屋に鍵付きトイレがあり職員が毎朝掃除を行っている。浴室は一般浴だが広々としており、湯を1名ごとに入れ替えて誰もが気持ちよく入浴できている。重度化、看取りに対しては指針、生前指示書等で対応を明確にしている。他、吸引吸痰行為については、職員3名で対応できる体制を整えている。今年12月には新たなグループホームを開設し多目的ホールの充実により地域住民との更なる交流が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔で、やさしく、支えあう安心できる生活を目指します。」という法人理念を朝礼時に唱和している。また理念に基づく行動指針も月ごとに設定し唱和している。	法人の理念に基づく行動指針には笑顔・やさしく・支えあう・安心の4項目があり月ごとに設定し朝礼時に理念とともに唱和している。事業所独自の理念もホールの見やすい場所に掲示し、職員は実践へつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設する施設とともに地域住民を招くイベント(納涼祭等)を行ったり、地域の行事(祭等)に参加している。犬の散歩等で地域住民が施設の敷地内に来られたりする。年4回発行するの広報誌を町内の回覧板に入れて回してもらっている。	コロナ禍で地域住民を招く行事は行っていない。中学生の職場体験や専門学校生のボランティアを受け入れる体制は整えている、町内会には加入していないが、広報誌の回覧を依頼している	今後は事業所の増築により共有空間が広がる為、事業所独自の行事や交流スペースの開放、介護教室の開催等、幅広い活用方法を模索し、地域住民との交流が深まる取組みにも期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との関わりあいの場で、事業所の特色や活動内容について伝えることで、認知症への理解や支援方法を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や事故報告、ケアに関する事項などを検討、意見交換し施設運営に反映させている。	8月は書面の会議だったが、通常は地域包括支援センター職員・利用者家族・自治会長・事業所職員が参加し、2か月に1回行っている。家族が参加しやすい土曜日の午前中に行い、参加できない家族には議事録を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス提供時に分からないことがあれば問い合わせを行い、適正な運営に努められるよう指示やアドバイスを頂いている。	市職員とは事故報告やヒヤリハットについて連絡を密に取るようにしている。コロナ関係についてもアドバイスを受け対応を行った。運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で行う会議、勉強会に参加し身体拘束防止に向けた職員の意識を高めている。現状は玄関を常時施錠している。	法人内で身体拘束の委員会があり会議、勉強会を定期的に開催している。マニュアルを作成しており、禁止の対象となる行為は職員間で注意を促している。利用者の安全を最優先に玄関は常時施錠し防犯カメラを駐車場に向け設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で行う会議、勉強会に参加し虐待防止に向けた職員の意識を高めている。また管理者等と従業員が話しあう機会を持ち支援を行う上での悩みなどを聞くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体として制度を学ぶ機会が確保できておらず、職員によって制度理解にバラつきがある。実際に利用されている利用者の保佐人とは担当者が定期的にやりとりを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を使用しながらサービス内容の確認を行い契約を行っている。また必要に応じて利用者やご家族の疑問点について説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見、要望は日常の会話や面会、問い合わせ時、意見箱などで把握し、個別の支援や運営に活かしている。	利用者、家族の意見は日常の会話から聞き取るようにし、業務日誌・連絡帳に記録し、支援や運営に生かしている。年1回家族アンケートを行っており、意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の話し合い、業務日誌や職員連絡帳を活用し、運営内容や個別の支援について意見交換を行っている。	年2回の個別面談で思いを聞くようにしている。日々の業務では連絡帳を活用し意見や提案をすることができ、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回代表者との個人面談を行い、職場環境などについて意見交換できる場を設けている。また法人全体の勤務条件、環境については、法人事務局を中心に検討を行い年1回以上行う職員全体会議で話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体でテーマを決めた勉強会を開催している。外部研修にも参加できる機会が確保できるよう、勤務に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所とは交流を持っているが、グループホーム単独では他施設とのネットワーク作りはあまり行えていない。今後、他のグループホームとの相互訪問等を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者とのカンファレンスやご本人、ご家族との面談を通じて状態や要望の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には見学や重要事項説明書、広報誌を活用してグループホームでの生活を知って頂くよう説明を行っている。入居時には面談の時間を多くとり、ご家族の要望について把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にはご本人への面談や入居前の担当者、ご家族とのカンファレンスを行い、ご本人に必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中にご本人の役割を取り入れ、職員とご利用者が一緒に作業している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出など、協力して頂ける支援をご家族と一緒に話し合い、日々の支援の中に取り入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の他、知人友人の面会を積極的に受け入れている。また、ご家族の協力を得ながらご本人が通っていた病院など慣れ親しんだ地域へ出かけることを行っている。	家族との面会を積極的に受け入れている。事務所の携帯電話を使用して知人や家族とのやり取りを支援している。自宅訪問や墓参りなど馴染みの場所への外出も家族の協力をえて継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛けあって行えるような作業、レクリエーションの提供や談笑しやすいよう座席などに配慮している。また、ご利用者同士のトラブルに繋がりそうな場面では職員が積極的に介入しお互いが気持ちよく生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、併設した居宅支援事業所のケアマネや特養の相談員などと連携して相談、支援に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活歴の把握や日々の関わりの中からご利用者の要望を把握できるように努めている。	家族の面会を積極的に受け入れている。事務所の携帯電話を使用して、知人や家族とのやり取りを支援している。自宅訪問や墓参りなど馴染みの場所への外出も家族の協力を得て継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の施設や病院、ご家族などから聞いた情報を職員間で共有しサービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員による日々の観察や記録を基本に、面会者が感じられたご本人に関する気づきなど状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてご本人や職員と話し合い、計画作成に活かしている。ご家族とは定期的に話し合う機会を持ち、ご本人の様子を記録、映像等で説明しながら生活に関する要望を聞いたり意見交換を行ったりしている。	新人職員を除き、職員1名が利用者1名を担当し、ケアマネジャーは家族の意見、担当職員や連絡帳の情報等を基にプランを作成している。モニタリングは3か月毎に実施しプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者ごとに個別の記録を行っている。また職員の気づきや状態変化など、情報の共有が必要な場合は業務日誌等に記入し、日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望やご本人の状態に応じて通院介助の支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緑豊かな地域性や併設施設の行事、地域の祭りなど地域資源を活用しながら豊かな生活を送ることができるように努めている。グループホーム単独の取り組みについては、今後も検討していく必要がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に受診を希望する場合はご家族と一緒に通院して頂いている。状況に応じて職員も同行・代行し希望される医療が受診できるように努めている。	かかりつけ医受診の際、家族に身体状況を説明し、伝えてもらっている。往診希望の場合も納得が得られた医療機関に受診できるよう支援している。協力医の訪問診療、歯科診療もあり、異変への早期対応を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師がご利用者の状態把握を行っている。また日常において状態の変化があった場合には看護師に報告相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院への情報提供やカンファレンスを通じて連携を取っている。また退院時には担当者、ご家族とのカンファレンスを行い今後の支援方針について協議を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における施設の方針について説明を行っている。看取りを行う際には、ご本人・ご家族が納得できる最後を迎えられるよう話し合いを重ねている。	重要事項説明書別紙として「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」「生前指示書」があり利用者・家族が納得できる最期を迎えられるよう支援している。看取り経験は2件あり、吸引吸痰の研修を受けた職員は3名おり、重度化に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などの連絡網を整備し対応に備えている。また法人内での事故防止のための委員会にも参加しているが、発生時の応急措置などの訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施。災害時における対策は併設する特養と合同で対応している。	年2回日中・夜間を想定した防災訓練を行っている。1回は消防署員が訪問し全員が安全に避難する方法などの指導を受けている。土砂災害に関しては危険個所の擁壁工事が完了している。非常食・備品等の備蓄もある。	近年、自然災害が多発しており、施設職員だけでは対応できない事態も想定される為、自治会長等にも防災訓練への参加を呼びかけ、地域との協力体制を築くことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関する勉強会や研修を通じ、ご利用者に気持ちよく過ごして頂けるような言葉かけや対応を実践できるように努めている。入浴や排せつ介助時にもプライバシーが守られるように配慮している。	マニュアルを作成し、内部研修を行っている。利用者の居室には施錠できるトイレがあり、利用者が鍵を開けるまで外で待つなど尊厳が守られるよう配慮している。不適切な対応に対しては職員相互で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や行事内容などにご利用者の希望を取り入れるようにしている。また日常的な生活場面でもご本人の意思を確認し、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の時間を考慮しながら、ご本人のペースや想いを尊重しやりたいことが出来るように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを一緒に選んだり、ご本人の要望に応じて理髪のを機会を設けたり、希望する美容院に出掛けるなど、その人らしい身だしなみができるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とご利用者が一緒に食事をとり、楽しく和やかに食事できるように努めている。また食後の後片づけなどを一緒に行っている。	管理栄養士の作成した献立に沿って母体法人厨房で作られたものを事業所で盛り付け提供している。おやつは利用者の希望を聞きながらぼた餅、白玉団子などを利用者とともに作ったり、季節の行事食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や主食の量、食事量や水分摂取量が落ちた場合や医師からの指示があった場合の対応などを管理栄養士と相談し検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨きが行えるように声掛け、支援を行っている。また夜は必要に応じて義歯を外して洗浄、保管するなどの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者ごとに排泄時間を記録し、排泄パターンを把握し対応できるよう努めている。状態に応じつつも見守りや確認を中心にして羞恥心に配慮しながら自立して排泄できるように支援している。	排泄チェックシートでパターンを把握している。居室のトイレで施設して排泄される場合もさりげなく見守りを行い、確認を行っている。ホール横と浴室横にもトイレがあり、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体を動かす機会を作り自然排便が行えるように支援を行っている。また排便状況やご本人の訴えに応じて主治医に相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯はある程度固定しているが、ご本人の希望や体調に応じて柔軟に対応できるようにしている。	週2回午前中に入浴している。利用者毎に湯を入れ替えており気持ちよく入浴できている。前室には個人の物は置かれておらず、入浴時持ち込むようにしている。シャンプーリンス等は施設が用意したものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人から希望や状態をみて横になる時間が取れるように支援している。就寝時間や起床時間についてもご本人の希望や体調に合わせて声を掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個人記録に保管し職員間で共有できるようにしている。服薬時には確認を行い確実に服用できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴などからご本人の楽しみや役割を生活の中に取り入れられるように支援している。誕生日会、季節に応じたイベントなどもご利用者と一緒に企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外に出られるよう、天気が良い日は近隣の散歩を行っている。ご利用者の希望を聞き食事や行事、買い出しなどの外出を行っている。また、季節に応じた外出先を企画している。	コロナ禍で外部との接触を避けての外出を行っていたが、今年度はゆりの里公園、ショッピングセンター、菊人形など入浴のない水曜日に、法人のバスを利用し利用者全員での外出を行っている。希望者には近隣の散歩の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持されている方はいらっしやらない。希望があり管理できる方は、金額を把握したうえでご本人に管理して頂けるよう支援を行う方針である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から電話があった場合は取次ぎができるよう支援している。年賀状など季節に応じた手紙のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オブジェや制作物を飾るなどして季節感を出せるように配慮している。温度調整や換気などは随時行い心地よく過ごせるように心がけている。	共用空間はこじんまりとしているが、すっきりと整理されている。フロアや廊下の壁には利用者の作成した季節の作品が飾ってあり温かみを感じることが出来、畳のスペースでは、生活感を感じることが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者と過ごせるように座席などに配慮している。また要望に応じて居室や畳スペースで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に問題がないものであれば、ご家族やご本人の希望に応じて馴染みの物など自由に持ち込みができるようになっている。	各部屋にトイレ、洗面台があり施錠も出来る。ベッド、タンスは備え付けてあるが、希望の家具を持ち込むこともできる。食事の後自室で好きなテレビ番組を見て過ごす利用者も多く、一人一人の生活が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の壁にはすべて手すりを配置し、安全に歩行が行えるよう配慮している。夜間帯には必要に応じてセンサー等を配置し事故等が起きないように努めている。		